



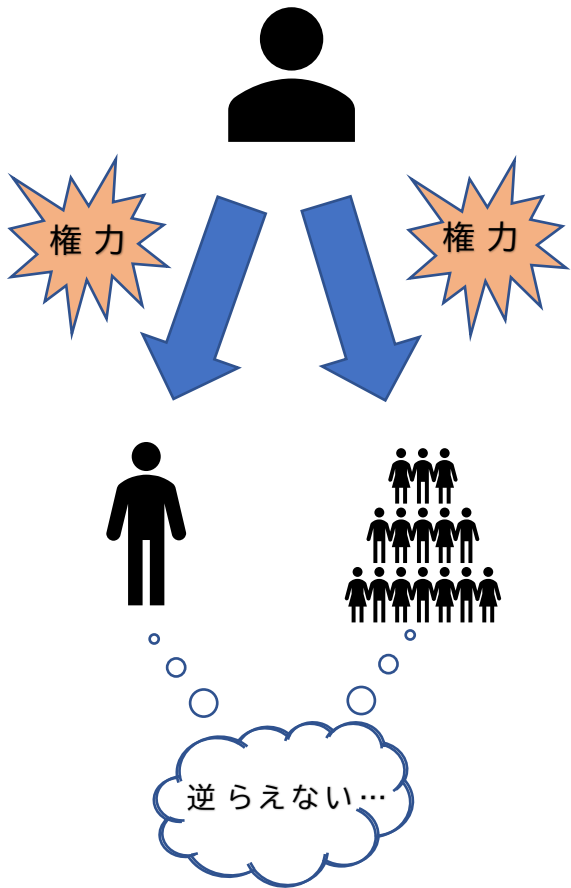
当サイトはこちらからご覧になれます。

# ★権力論

—目に見えない権力にひれ伏す私たち—

権力論は評論の重要テーマの一つです。しかし、急に「権力」といわれても、いまいちピンとこないのが普通でしょう。日頃から「権力」について考えている人はそうそういないからです。ですが、実はそこに落とし穴があります。実際にこの「権力論」が出題されると、最初から最後まで何を言っているのかさっぱり…なんてこともあるのです。

さて、「権力」とは何でしょうか。それは、ある主体が他人や他の集団に行動を強制する能力のことです。しかし、その「権力」にも様々な形があります。そこで、「権力」について考えるために、フーコーという人の考えを援用しましょう。

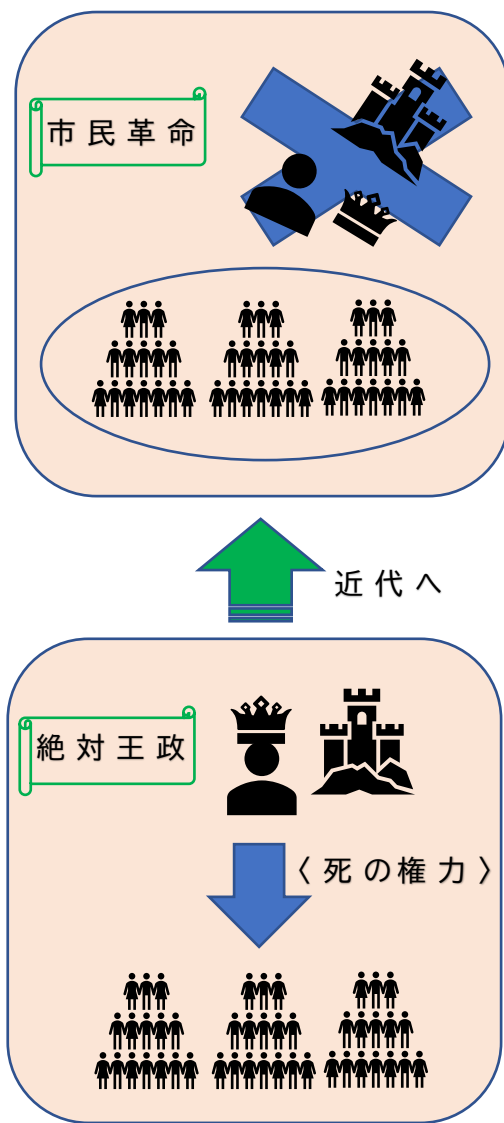


◎ 評論キーワード

- ・ **権力**…ある主体が他人や他の集団に行動を強制する能力。
- ・ **主体**…行為や作用を他に及ぼすもの。対義語は「**客体**」。
- ・ **援用**…自分の主張を助けるために、他の意見や事実などを引用する。

近代以前、つまり中世まで、「権力」は「**死の権力**」であったとフーコーは言います。「死の権力」とは、**絶対的な権力**をもった王様に逆らわないようにさせる力のことです。逆らえば当然死刑であり、それを恐れて人々は「死の権力」に従って生きていたのです。

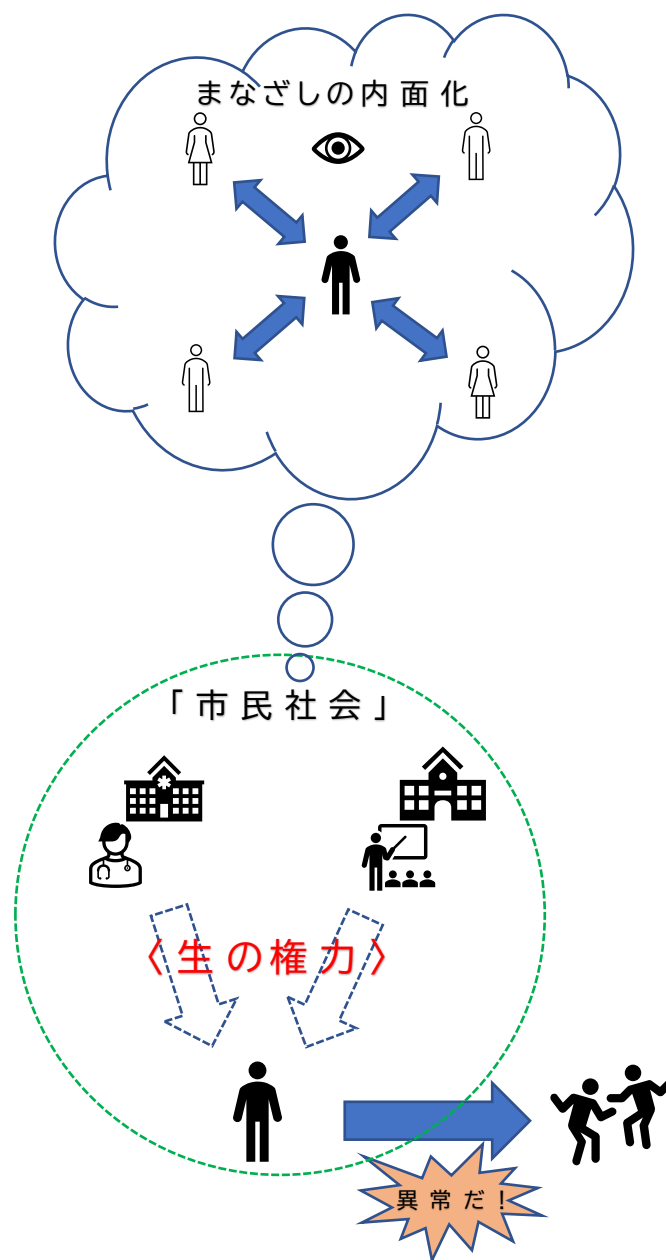
しかし、**絶対王政を打倒する市民革命**が起こり、近代が幕を開けます。したがって、近代以降には「死の権力」を振りかざす王様がいなくなります。ようやく人々は自由を手に入れた「はず」だったのです。しかし、フーコーは言いました。近代以降、個人は自由になるどころか「**生の権力**」に進んで従うようになった、と。「生の権力」とは、**市民社会**の構成員を積極的に生かすことで、社会に**適合**するように人間を作り上げる力です。



◎ 評論 キーワード

- ・ **死の権力**…絶対的な権力をもった王様に逆らわないようにさせる力。
- ・ **絶対的**…他と比べられない様子。対義語は「**相対的**」。
- ・ **絶対王政**…王様が絶対的な権力を行使する政治体制。
- ・ **打倒**…負かすこと。
- ・ **市民革命**…一般的な市民が主体となって起こした政治革命。
- ・ **生の権力**…社会に適合するように人間を作り上げる力。
- ・ **市民社会**…市民革命によって成立した社会。

「生の権力」には例えば、学校をはじめとする教育機関、病院などの医療機関などがあります。そこでは個人は市民社会のルールを教えられ、長生きさせられます。すべて、市民社会に適合するためです。それらは間違いなく「権力」として働いているのに、人々はそれを「権力」だと感じません。王様のように権力をかざす主体がないからです。しかし、その「権力」を進んで取り入れ、最終的には**内面化**してしまうのです。こうして近代以降、「生の権力」によって、人々はお互いが監視し、監視される状態になります（**パノプティコン効果**）。市民社会のルールに適合出来ていれば正常、出来ていなければ異常のレッテルを貼るのです。ここにおいて、異常＝狂気として排除する思想が根付いたのです。私たちは「生の権力」に進んで従っているのです。



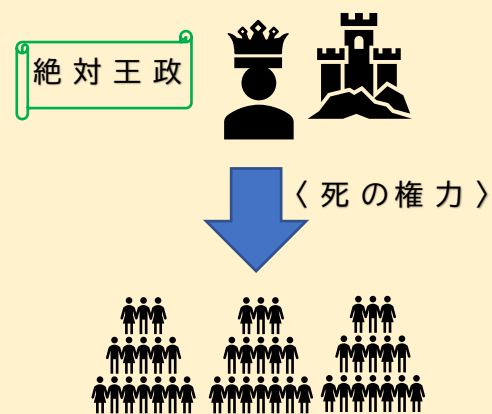
◎ 評論 キーワード

- ・ **適合**…ある条件によく当てはまること。
- ・ **内面化**…自分にとって基礎となるほどに当たり前の考え方として取り込むこと。

・ **パノプティコン効果**…監視する主体がいなくても、監視されているときのように振る舞うようになること。パノプティコンとは、監視者の姿が見えない監獄のこと。

★権力論  
〈まとめ〉

●近代以前は「死の権力」に従って生きていた！



●近代以後は「生の権力」に従うようになった！

